

令和2年度第1回石狩市総合戦略推進懇話会 議事録

【日 時】 令和2年7月27日（月）13:00～14:40

【場 所】 市役所本庁舎5階 第1委員会室

【出席者】 14名（16名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治	○	委員	小林 卓也	○	委員	高梨 朝靖	×
副会長	竹口 尊	○	委員	小渡 信洋	○	委員	徳光 康宏	○
委員	秋田谷 順子	○	委員	酒井 志津子	○	委員	林 美香子	○
委員	尾田 真	○	委員	佐藤 拓也	○	委員	原 俊彦	×
委員	小山 玲子	○	委員	品川 洋之	○			
委員	河野 明美	○	委員	白井 かの子	○			

※正副会長を除き、あいうえお順

【事務局】 企画経済部長 小鷹 雅晴、企画経済部次長兼企画課長 中西 章司、企画課主査 橋本 麻里子、
企画課主事 本庄 あゆみ

【傍聴者】 2名

【事務局（中西次長）】

本日は、時節柄お忙しいところご出席をいただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより「第1回石狩市総合戦略推進懇話会」を開催いたします。

私は、事務局の石狩市企画経済部次長兼企画課長の中西と申します。会長・副会長が決まるまでの間、私のほうで進行をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

本日の会議ですが、お手元にお配りした「次第」に沿って進めさせていただきますが、皆様から必要な意見をいただきつつ、こういうご時世ですので、会議も極力短めにということで進めさせていただければというふうに思いますので、よろしくどうぞお願いいたします。

まず、本懇話会についてでございますが、平成27年に第1期総合戦略を策定以降、委員の皆様のご協力を賜りながら運営してまいりました。懇話会委員の任期は2年間であり、前回、平成30・31年度委員の任期は、本年3月をもって終了いたしました。皆様には本年4月から、令和2・3年度の委員にご就任いただき、本市総合戦略の推進についてご意見等を賜りたく存じます。

なお、本日、委嘱状の交付につきましては、時間の関係もございまして、大変恐縮ではございますが、あらかじめ皆様のお座席に配布させていただき、これをもって交付とさせていただきます。委嘱期間は2年間でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、議事に入る前に企画経済部長の小鷹より一言ご挨拶申し上げます。

【事務局（小鷹部長）】

皆様こんにちは。日頃より市行政に多大なるご理解ご協力いただいておりますことを、この場をお借りいたしまして御礼申し上げたいと存じます。また、この度は本委員就任についてご承諾、あるいは応募をいただき心より御礼申し上げます。また、委嘱状をお渡しするのが本日となりましたことをお詫び申し上げます。本来であれば、市長の加藤がこの場に来てご挨拶申し上げるところですが、あいにくの公務のため、出席が叶わないことをお許し願いたいと思います。私もこの後、違う公務で退席をさせていただきます

す。恐縮でございます。

さて、本市では、平成27年度に「第1期総合戦略」を策定し、人口減少の緩和と地域経済の発展、持続性の高い地域社会の構築を目指し、5年間にわたって各事業を実施してまいりました。

計画期間の最終年であった昨年度は、第1期で根付いた地方創生の意識や取組を2020年度以降にも継続するため、国と同様、第2期総合戦略を策定したところであります。策定に当たっては、委員の皆様にご多大なるご支援とご協力をいただきましたことを、改めてこの場をお借りして感謝申し上げます。

令和2年度は、第2期総合戦略の開始年度であり、地方創生を推進するため、各事業に取り組むところではございますが、今般のコロナウイルス感染症の関係で、事業にも影響を及ぼしておりまして、中止している事業も出てきております。今後とも感染症予防対策と社会経済活動の両立に取り組んでまいりたいというふうに考えてございます。

最後に、これから2年間、懇話会委員の皆様から活発なご意見等をいただきながら、本総合戦略を進めてまいりたいと存じますので、よろしく願いいたします。簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

【事務局（中西次長）】

続きまして、私のほうから、委員の皆様を座席順にご紹介いたします。石狩商工会議所 角川 幸治 様です。石狩商工会議所 酒井 志津子 様です。はるきちオーガニックファーム 小林 卓也 様です。徳光商事株式会社 徳光 康宏 様です。北海道大学大学院農学研究院 林 美香子 様です。北海道信用金庫 石狩支店 佐藤 拓也 様は出席予定ですが遅れているようでございます。わかば地区地域会議 竹口 尊 様です。北海道銀行 花川支店 尾田 真 様です。北洋銀行 花川北支店 小渡 信洋 様です。連合北海道石狩地区連合 品川 洋之 様です。株式会社キューブコーポレーション 河野 明美 様です。厚田こだわり隊 小山 玲子 様です。浜益自治婦人会連絡協議会 白井 かの子 様です。一般公募 秋田谷 順子 様です。

なお、一般社団法人石狩観光協会 高梨委員、札幌市立大学 原委員におかれましては、本日都合により欠席となっております。

次に、事務局のメンバーを紹介いたします。企画課主査の橋本です。同じく主事の本庄です。どうぞよろしく願いいたします。

それでは次に、次第の「会長・副会長の選出」についてです。石狩市総合戦略推進懇話会設置要綱の第4条において、「懇話会に会長及び副会長を各1人置き、委員の互選により定める。」となっておりますが、こういった形で選出すればよいかのご意見があればお伺いしたいと思います。

【品川委員】

事務局で案はないのでしょうか。

【事務局（中西次長）】

はい、ただいま事務局案というご意見をいただきました。ほかにご意見がなければ、ご提案させていただいてよろしいでしょうか。事務局案としましては、これまでの懇話会に引き続き、会長には産業界から参加いただいています、石狩商工会議所の角川委員、副会長には住民組織分野から参加いただいています、わかば地区地域会議の竹口委員をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

<「異議なし」の声>

【事務局（中西次長）】

ありがとうございます。それでは、会長には角川委員に、副会長は竹口委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。それでは会長、副会長の席にご移動願います。これ以降の進行は、角川会長にお任せいたします。角川会長、よろしくお願いいたします。

【角川会長】

皆さんこんにちは。今期も会長としてお世話になることとなります角川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私が、この総合戦略懇話会の方に関わらせていただいて、会長ということで仰せつかってから、早くも丸5年になっておりますが、6年目ということになるんですけど、私、特別能力は優れているわけでもないですし、知識も経験もそんなにあるわけじゃないんですが、いつも心がけていることは、忙しい中で参加していただいている皆さん方に、一言ずつでもご意見をいただきたいというふうにも思っております。また、お忙しい中集まっていたので、より中身のある、中身の濃い懇話会になればいいなというふうに、いつも心がけてはいるんですけども、なかなかせっかちな性格なものですから、時間内に終わらせたいという気持ちがちょっと先行して、せっかく熱く皆さん方にお話いただいている中で、私が勝手にカットしてしまう時があるなど。私の中でも反省点であり、もしかしたら良いところの1つなのかもしれないんですけども、そういう所があるので、それは直りませんので、それだけは改めて皆さん方にお願いとご理解をいただきたいなというふうに思っております。

さあ、新しい期がまた始まるんですけど、これまで思い起こせば、いろんな皆さん方のご意見を頂戴して、いろんな提案をしてまいったと。それが具現化したもの、あるいは検討の措置に上がっているものとか、様々あるんですけども、5年も経つと本当に時代が全然違うんですよ。これまでの10年間で、今5年、もしかしたら3年、もしかしたら去年のことがもう古くなってしまったり、ましてや今の新型コロナウイルスの影響で、世の中が大きく変わろうとしているところです。

そういうことも踏まえながら、より今の感覚に近いといいますか、新しいものすべて良いというわけではないんですけど、新しい発想だとかアイデアとか、そういったものを優先していければなというふうには思っておりますし、中にはそんなことはどうなんだろうっていう考え方も、もしかしたら出てくるのかもしれないんですけど、それはそれで受け入れる場にしたいなって、私は思っております。

私は特に若い人の意見というのは、前から尊重していきたいなというふうに思ってます。もちろん大ベテラン、大先輩の竹口副会長の力を借りながら進めてまいりたいというふうに思ってますので、また2年間、よろしくお願いいたします。

それとですね、今このご時世ですので、なるべく短めに懇話会を進めていきたい。私の予定では1時間からどんな長くても1時間半で終わらせたいというふうに思っていますので、先程冒頭で触れた端折り方をするかもしれませんが、そこはご了承いただいて。ぜひ2年間ご協力いただきたいというふうに思っていますので、よろしくお願いいたします。

次第に基づいて進めさせていただきます。まず事務局より、委員の皆様を確認事項がございますのでよろしくお願います。

【事務局（橋本主査）】

はじめに、委員の皆様事前に御配りしてあります資料のご確認をお願いいたします。

- ・次第
- ・資料1 石狩市総合戦略推進懇話会の概要
- ・資料2 石狩市総合戦略推進懇話会設置要綱

- ・資料3 石狩市総合戦略推進懇話会委員名簿
- ・資料4 第1期総合戦略 平成31年度（令和元年度）実施事業一覧
- ・資料5 石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について
- ・資料6 第2期総合戦略 令和2年度実施予定事業一覧
- ・その他、白い冊子「石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」
- ・黄色く縁取られた冊子「第2期石狩市まち、ひと、しごと創生総合戦略」

以上になります。お持ちでない場合はお申し出ください。

なお、本会議は傍聴可能な公開形式となっております。会議の記録のため、今後写真を撮影する場合もごさいますのでご了承願います。

次に、本会議の運営について確認させていただきます。

まず1点目は、会議録についてです。会議後は、会議録を作成して公開することとなっておりますが、会議録は「全文筆記」方式とし、会長にご確認いただいた後に確定し、皆様に配布したいと考えています。

2点目としまして、市の審議会等ガイドラインでは、委員の皆様のご同意を得た上で、傍聴者が傍聴した後、感想や意見を文書で提出することも可能とされていることから、傍聴者に所定の用紙を配置させていただきたいと思っております。以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。事務局から会議の運営について2点ご説明がございました。まず1点目、会議録については全文筆記と。これまでどおりですね。会長の私が確認した上で皆様方に配付をさせていただきますということです。こちらは前の期でもお話しさせていただいたんですが、以前は要約だった時代があるんですけど、要約だと皆さん方の意見を十分に反映させることが難しい場合がある、ということですね。要約し過ぎて、本意が伝わらない場合があるということで、私の方からリクエストさせていただいて、全文筆記のほうに変更させていただいたという経緯がございます。先程のお話だと20時間もかかるんですね。これは大変で、職員さんのご負担になっているってこと私も初めて聞きましたので、ICT等を使って、より効率的に進めていただければなというふうに思います。

2点目は「会議の傍聴者からの感想や意見等について、文書での提出を認めること」、の2点でございます。これに関しまして委員の皆様から何かご意見がありましたら挙手をお願いします。

<「異議なし」>

【角川会長】

ご異議なしということで、事務局から提案の2点につきましては承諾することといたします。次に次第4「総合戦略懇話会について」を事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（橋本主査）】

それでは、総合戦略推進懇話会について、概要・スケジュールについてご説明いたします。資料1をご覧ください。

本懇話会は、石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略の各施策の推進及び実施状況の総合的な検証に関し、効果検証や意見交換等を実施し、市長、副市長、部長職で構成される「総合戦略推進本部会議」の所掌事項に対する必要な助言や提案等を行うとしています。

次に、スケジュールですが、1回目は本日7月27日、2回目は、コロナウイルス感染症の状況にもよりますが、10月～11月頃、市内を視察するフィールドワークを予定しております。

第1回目である本日は、まず、平成27年10月に策定した第1期総合戦略について、計画期間は平成27年度から平成31年度までであり、昨年度をもって終了したことから、平成31年度事業の実績報告及び第1期総合戦略の総括を行います。

次に、本年3月に策定した第2期総合戦略について、計画期間は令和2年度から令和6年度までであり、開始年度である、今年度の実施予定事業についてご報告いたします。

資料2・3につきましては、懇話会設置要綱と委員名簿ですので、後程ご覧ください。私からは以上です。

【角川会長】

ただいま、事務局から説明がありました。何かご意見等がございましたらご発言願います。今年度のスケジュールは本日の第1回と次回の全2回ということですのでよろしいですね。2回目のフィールドワークについては、過去に参加された方もいらっしゃると思うんですが、実際に現場へ足を運んで見に行ったり、その方、役所であったり民間であったりする機会が多いんですけど、話を聞いて学んで、皆さんから意見を頂戴するというのがフィールドワークという感じですね。変わる可能性もありますけど。そういう流れになっております。

次に次第5「第1期総合戦略について」を事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（橋本主査）】

それでは、私から第1期総合戦略についてご説明申し上げます。資料4の「第1期総合戦略 平成31年度（令和元年度）実施事業一覧」をご覧ください。

こちらは、6つの戦略目標ごとの具体的な施策において設定した、重要業績評価指標（KPI）を中央に掲載し、右へ順番に、5年間の実績、5年間の合計、こちらは、KPIが5年間の合計を設定している場合に記載している項目になります。次に平成31年度の実績内容、担当課の評価を掲載したのになります。担当課の評価については、本戦略の5年間の計画期間を終え、最終的にKPIを達成していれば「A」、達成していなければ「B」としております。

具体例を挙げてご説明いたします。右端に番号を振っていますが、1番をご覧ください。こちらのKPIは「平成31年度の町内会カレッジの講座参加者数 20人」としてありますが、実績値は、平成27年～31年度のいずれも0人であったことから、こちらの評価は「B：達成しなかった」となります。

次に、3番をご覧ください。こちらのKPIは「高齢者クラブ新規加入数 5年間で500人」としてあります。実績値は、平成27年度の157人から、28年度94人、29年度96人、30年度102人、31年度88人となっており、5年間の人数を合計すると537人になります。KPIは5年間で500人としていることから、5年間で537人であったこちらの項目の評価は「A：達成した」となります。

このように、全70項目について掲載しております。全70項目の詳細については割愛させていただき、資料5総括の説明に移ります。

資料5の「石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について」をご覧ください。こちらは、昨年度で計画期間を終えたことから、これまで5年間の取組について総括的な評価を行ったものになります。

1ページの「1. はじめに」は省略いたします。「2. 本市の現状」をご説明いたします。

図1は平成27年度から平成31年度までの「総人口及び高齢化率の推移」を表したもので、表1は平成27年度から平成31年度までの「自然動態及び社会動態の推移」を示したのになります。

図1のとおり、本市の総人口は平成27年度59,120人から平成31年度58,221人となり、899人減少し

ております。また、高齢化率は、平成 27 年度は 30%だったものが、平成 31 年度では 33.5%にまで上昇しており、高齢化が進展している状況にあります。

次に、表 1 のとおり自然動態については、死亡数が出生数を上回っている状況が継続し、自然減が続いています。また、社会動態については、平成 29 年度は転出超過となりましたが、平成 27, 28, 30, 31 年度は転入超過となり、社会増が続いています。

2 ページの「3. 総合戦略の総括」をご覧ください。図 2 は、6 つの戦略目標ごとに数値目標を 2 項目ずつ設定しておりますが、全 12 項目の数値目標の達成割合を示したもので、図 3 は 6 つの戦略目標、全 70 項目の KPI の達成割合を示したものです。数値目標については、達成 42%、未達成 58%、KPI については、達成 49%、未達成 51%という結果になりました。

各戦略目標の評価については、3 ページ以降に掲載していますが、全体を通して成果が見られた取組は、次の 5 点が挙げられます。

- ・高齢者クラブやふれあいサロンなど、地域の交流が生まれる居場所づくり
- ・学習や運動の場の提供や機会創出の取組
- ・地場特産品の PR や販路拡大への取組
- ・就職支援セミナー開催など、若い世代の就労に対する支援
- ・移住定住へのインセンティブに繋がる結婚新生活支援事業や空家活用助成事業です。

反対に、目標未達成の項目については、主に次のような課題が挙げられます。

・地域課題解決に向けた支援組織の構築や石狩ブランド支援制度の創設といった仕組みづくりについては、関係機関との課題や情報の共有、各種調整、運営方法など検討すべき点は多く、より丁寧な取組が必要である。

・学生ボランティアの参加については、学生との意見交換では興味や関心はあるものの、結果として参加には至らなかったことから、学生ニーズとのマッチングや内容、周知方法の工夫だけではなく、社会の変化をとらえた事業展開が必要である。

・祭りやイベントなどの入込客数については、悪天候や地震の影響が大きかったものもあるが、様々な要因で開催を見送ったものもあり、入込客数の増加に繋がる魅力的な内容の充実はもちろんのこと、幅広い年代が楽しめるイベントの継続に資する取組も必要である。

以上のことから、地方創生の意識や取組は着実に根付きつつありますが、成果の発現にまで至っていない項目もあります。取り組むべき課題があることを認識した上で、地方創生の、より一層の充実・強化を図るべく、第 2 期総合戦略を推進していくことが重要であると考えています。

次に、3 ページから 14 ページまでは、戦略目標ごとに記載しています。

3 ページ「(1) 戦略目標 1 「新現役世代」が活躍する」をご覧ください。資料 4 において対応するページは、1～2 ページになります。まず中央に記載の「①数値目標」ですが、「地域活動に関わりをもつ新現役世代の人数」は、平成 31 年度 370 人を目標としていましたが、平成 31 年度の実績は 301 人で、未達成となりました。次に「自分の知識や経験を地域社会で活かしたいと思う 60 歳以上の市民の割合」について、こちらは市民意識調査によるものですが、平成 31 年度 100%を目標としていましたが、実績は 58.6%で、未達成となりました。平成 27 年度からの推移を見ると、横ばいで推移し、いずれも目標には達していないことから、新現役世代がやりがいを持ち、地域で活躍できるよう、きめ細かな情報提供や参加しやすい環境整備が必要であると考えます。

4 ページの「②KPI」をご覧ください。全部で 9 項目あり、達成は 6 項目 (67%)、未達成は 3 項目 (33%)

となり、概ね順調に進めることができました。特に、人が集まり交流する場の創出については成果が得られましたが、地域課題解決に向けた支援組織の構築には至っておらず、関係機関等との課題や情報の共有、意識の醸成、運営方法など検討すべき点は多く、より丁寧な取組が必要であると考えます。

5 ページ「(2) 戦略目標 2 「子育て力」をさらに発揮する」をご覧ください。資料 4 において対応するページは、3～4 ページになります。「①数値目標」ですが、「平成 32 (2020) 年における年少人口の増加数」について、こちらは社人研推計値との比較になりますが、平成 31 年度 140 人を目標としていましたが、平成 31 年度の実績は 488 人で、目標を大きく上回っています。しかしながら、図 7 で推移を見ますと、減少傾向に歯止めはかかっていない状況にあります。次に「子育てに関する様々な集まりに参加している(参加したいと思う)市民の割合」について、こちらは市民意識調査によるものですが、平成 31 年度 50%を目標としていましたが、実績は 32.7%で、未達成となりました。推移を見ると、減少傾向も見られることから、多くの市民が関心を持てるよう、事業内容の充実や情報発信、参加しやすい時間設定等の工夫が必要であると考えます。

6 ページの「②KPI」をご覧ください。全部で 9 項目あり、達成は 3 項目 (33%)、未達成は 6 項目 (67%) でした。約 3 割の達成に留まりましたが、結婚や妊娠・出産を希望する方への支援が届けられたことや市内全園が子ども園への移行を完了したことなど、切れ目のない支援体制の構築を着実に進めることができました。

7 ページ「(3) 戦略目標 3 「地域資源」からモノやしごとを創る」をご覧ください。資料 4 において対応するページは、5～7 ページになります。「①数値目標」ですが、「市内産業売上高」は、平成 31 年度 2,000 億円を目標としていました。経済センサス活動調査は 5 年周期で行われており、直近の結果は平成 28 年度の調査になります。そのため、平成 28 年度の実績で見ることになりますが、2,339 億円となり、目標を上回りました。次に「石狩ブランド」を作る取組に関わりたいと思う市民の割合」について、こちらは市民意識調査によるものですが、平成 31 年度 50%を目標としていましたが、実績は 27.9%で、未達成となりました。多くの市民が地域ブランドの創出に興味を持つような情報発信や環境づくりの工夫が必要であると考えます。

8 ページの「②KPI」をご覧ください。全部で 21 項目あり、達成は 10 項目 (48%)、未達成は 11 項目 (52%) でした。約 5 割の達成に留まりましたが、高校生の就職内定率の向上や新卒採用者の離職率が減少するなど、セミナー等の開催による効果が見られました。また、市内事業者への販路拡大・知名度向上を図るセミナーや、まちゼミの開催、商談会への参加によって、市内事業者の活動の幅が広がり、地域経済の活性化に寄与しました。地元農水産物を活用した加工品やメニュー開発がなされ、売上の増加や販路拡大に結びつきました。また、学校給食で積極的に活用することで地産地消を推進しました。地域農業・漁業の持続的な発展のためには、より積極的な地産地消の取組や農水産物の魅力的な商品の開発と情報発信が必要と考えます。石狩新港地域への新規立地企業数は目標を大きく上回っており、長年の誘致活動の成果が出ているものと考えられ、今後も社会情勢の変化をとらえた誘致活動を継続していくことが重要であると考えます。

9 ページ「(4) 戦略目標 4 「いろんな顔」をつくる」をご覧ください。資料 4 において対応するページは、8～9 ページになります。「①数値目標」ですが、「交流人口数(観光客等入込数)」について、平成 31 年度 185 万 3 千人を目標としていましたが、平成 31 年度の実績は 219 万 4 千人で、目標を上回りました。図 13 で推移を見ますと、平成 30 年度が 252 万 2 千人で最も多くなっています。こちらは、平成 30 年 4 月に道の駅が開業したことによるものです。次に「地域の資源を見つけ、価値を創造し、魅力あるまちに

していくための集まりに参加している（参加したいと思う）市民の割合」について、こちらは市民意識調査によるものですが、平成31年度50%を目標としていましたが、実績は25.8%で、未達成となりました。市民一人ひとりが地域資源の魅力に気づき、磨き上げて発信し、広がっていく好循環を生み出せるよう、より多くの市民が参加したくなる内容や環境づくりの工夫が必要であると考えます。

10 ページの「②KPI」をご覧ください。全部で9項目あり、達成は3項目(33%)、未達成は6項目(67%)でした。約3割の達成に留まりましたが、道の駅開業により市内外から多くの観光客が訪れ、周辺地域にも人の流れができるなどの波及効果がありました。また、地場産品を使った新商品や体験型観光商品の開発が活発化したほか、道の駅を中心としたイベントが積極的に開催されるなど、地域活性化に大きく寄与しました。

11 ページ「(5) 戦略目標5 誇りとなる「人や文化」を育てる」をご覧ください。資料4において対応するページは、10～13 ページになります。「①数値目標」ですが、「転入・転出者数の均衡（転入者数から転出者数を減じた数）」について、平成31年度0人を目標としていましたが、平成31年度の実績は318人で転入超過となり、目標を大きく上回りました。次に「石狩市が好きと感じる市民の割合」について、こちらは市民意識調査によるものですが、平成31年度100%を目標としていましたが、実績は75.8%で、目標には届きませんでした。高い水準で推移しています。

12 ページの「②KPI」をご覧ください。全部で12項目あり、達成は6項目(50%)、未達成は6項目(50%)でした。文化活動やスポーツ、自然環境を学ぶ場には多くの市民が参加しており、今後も幅広い世代が学べる機会を創出することが必要であると考えます。しかし、学校支援地域本部事業（あい風寺子屋教室）においては、学生がボランティアで参加してもらい、まちづくりをサポートする若者世代の拡大を目指していましたが、学生や大学への意見交換では興味や関心はあるものの、参加には至りませんでした。今後は、学生ニーズとのマッチングや事業内容、周知方法の工夫のみならず、社会の変化をとらえた事業展開が必要であると考えます。地域おこし協力隊については、観光や自然、音楽など多岐にわたる分野で活躍し、地域の活性化に大きく寄与しており、引き続き各隊員の個性を活かした活動を支援していきます。また、移住相談会や就農人フェアなどへ出展し、本市の積極的なPRを行うことで、より多くの人材が本市へ移住してもらえよう、引き続き移住定住事業を推進していく必要があります。

13 ページ「(6) 戦略目標6 時代にあった地域として持続する」をご覧ください。資料4において対応するページは、12～13 ページになります。「①数値目標」ですが、「住民基本台帳人口」について、平成31年度5万8千人を目標としていましたが、平成31年度の人口は58,221人で目標を上回ることができ、さらには、減少傾向に鈍化が見られました。次に「これからも石狩市に住み続けたいと思う市民の割合」について、こちらは市民意識調査によるものですが、平成31年度100%を目標としていましたが、実績は79.4%で、目標には届きませんでした。約8割を維持している状況です。

14 ページの「②KPI」をご覧ください。全部で10項目あり、達成は6項目(60%)、未達成は4項目(40%)でした。空家活用促進事業により、空家の解消と転入者の増加が図られたことや、ウェブGISでは、災害の種別ごとに避難場所を表示する機能などを追加し、平時のみならず非常時にも対応できる仕様になったこと、バスロケーションシステム導入による移動手段の利便性向上など、地域の生活環境の向上に繋がりました。

以上、第1期総合戦略についての説明を終わります。私からは以上です。

【角川会長】

各戦略目標についてということで説明がありました。繰り返しになりますけども、戦略目標は6つあ

りまして、戦略目標1が「新現役世代が活躍する」、2が「子育て力をさらに発揮する」、3が「地域資源からモノやしごとをつくる」、4が「いろんな顔をつくる」、5が「誇りとなる人や文化を育てる」、6が「時代にあった地域として持続する」ということで、それぞれ数値目標を挙げて、その達成についてはどうか。それとその内訳、各戦略目標にそれぞれ項目がありまして、重要業績評価指標いわゆるKPIと呼ばれるものが達成できているか否か、というところをA・Bの評価で、PDCAでいうところのチェックをしている、というところ。非常に多岐にわたっているんで、本来ならばお時間があればそれぞれ細かくご意見を頂戴したり検証したりというところなんですけども、すみません冒頭ご説明したとおりなので、全体を通して気になったところ、あるいはご質問、ご意見等を伺いたいなと思っております。まずはいかがでしょうか。林先生、いかがですか。

【林委員】

今全体として人口減の中で、人口減ってきていますが、この社会増というのはやっぱりすごいなというふうに思うんですけども、このあたりの分析はどのようになさっているのでしょうか。

【事務局（中西次長）】

なかなか一概にこれが、というのは言えないところではありますが、これまでやってきた1つ1つ、特に石狩湾新港地区の発展と、その推進を含めて社会増が増えてきているというのは、非常に大きい要因ではあるかと思えます。なかなかこれというのは難しいですが、総じて全体的な施策が広く受け入れられつつあるのかなというふうに捉えているところです。

【林委員】

あともう一点。自分たちで決めた数値ではあるのですが、3ページのところで、今となって見てみると「自分の知識や経験を地域社会で活かしたいと思う60歳以上の市民の割合100%」というのは、すごい数字だと改めて思ったんですね。ここは目標としてはやっぱり100っていうのがいいんですかね。

【角川会長】

どうなんでしょうね。必ず、目標到達が楽々できるよくだと意味がないので、高い目標のほうが…。いかがでしょう。

【林委員】

たまたま他の数値も100か50ですよ。そういうふうにして選ぶっていう視点もあったのかもしれないですけど。100っていうのはその地域のシニアの皆さんの活動などをなさっている方からご覧になってなかなか100って大変な数字だと改めて今見て思ったところです。

【角川会長】

竹口さんいかがですか。今ちょうどこの60歳以上の市民の割合が出てきたんですけど、この100とか50とか。

【竹口副会長】

目標設定は難しいと思うんですね。ただミスマッチというか、本人個人的にはしたいけれども、どのような方法をとったら、そういう自己実現ができるかということですね。それから最近、企業の実態からいって、雇用の延長、定年の延長ということで、60歳というのはまだ現役世代だと。70歳過ぎてもまだ働く

という意欲がありますので、それぞれの状況の変化とか、時代の背景の変化があるので、その辺の目標設定というのはちょっと難しいのかなと思います。

【角川会長】

これが例えば75がいいのか、80がいいのか65がいいのか非常に難しいところですね。100はわかりやすいですけどね。そんな意味合いかなというふうに思っています。これはアンケート結果ですよ。そうすると何人に聞いているかわからないけど、100人聞いて100人がそれに答えるというのは、なかなか難しいと思うので、でも高い目標ってことでご理解いただいて。

すみません、私からもちょっと気になったんですけど、直近の平成31年度、この数値目標はいずれもちょっと落ちているんですよ。過去5年で上がったり下がったりあるんですけど、今の60歳以上の部分の戦略目標1もちょっと下がっていますね。戦略目標2もちょっと下がりというところ、3が上がってはいますが、石狩ブランドのここはそのように考えている市民の皆さんが多いということの象徴かな、ぐっと上がっていますから。4もちょっと下がっているんですよ。それで5。この辺って何か理由ありますか。直近がちょっと下がっているというのは、ちょっと気になったのですが。

【事務局（橋本主査）】

アンケートは3,000人を無作為抽出して、郵送でお送りしてはいるんです。31年度が全体的に下がっているところについては、分析はできていないですね。

【角川会長】

そうですか。ちょっと気になるものですから。横ばいならまだしも、ちょっとでも下がっているっていうのは、何かトータルで考えての理由があるのか。3,000人もアンケートをとって、アトランダムでやっている訳ですね。

【竹口副会長】

サンプリングが3,000人で、世代別に何か分析をしていますか。年々高齢化が進んでいますので、そうすると年齢別に構成が変わってきますので、その分析がされると傾向が出るかなと。

【事務局（橋本主査）】

アンケートは10代から全世代に送っていて、

【竹口副会長】

ランダムに送っているんでしょ。結果の答えが年齢別に変化があるのかなと。

【事務局（橋本主査）】

比較的回答いただける率が高いのは、高齢の方からの回答が多い状況ではあります。

【角川会長】

あるかもしれませんが。他にご意見お持ちの方いらっしゃいますか。いつも最後のほうにご意見いただくことになって恐縮だったというふうに思っているんで、先に。どうですか、尾田支店長。いつも3行の支店長さんは後になるので最初のほうに。

【尾田委員】

頑張っているんだなという感想です。前にも言ったと思うんですけど、人口が増えて、しかもその中で若い人が増えていくってことは、いろんなことにプラスになっていくと思う。今までやってきたことを、これからも引き続き。多少でこぼこはあるかもしれませんが。石狩湾新港が今すごい活気があるので、その波と一緒に乗って勢いがあるときにググッとやることで、100%いろんな目標を早く進められる。地域に勢いがない時に一生懸命頑張ってもなかなか数字って上がらないと思うので、勢いがあるときにその波に乗って一生懸命やると、一気に数字が上がるのかなっていう気がしているので、これからは私も含めて頑張りたいなと思います。

【角川会長】

はい、そうですね。冒頭僭越ながら申し上げたように、5年って今本当に短いんですよね。あっという間に世の中の変化が大きいものですから。5年計画で5年かけてやると、果たしてそれで時代の流れとしてどうかっていうところは確かにあるんですね。ただし、民間ならば失敗したら、私も社長ですけど、社長のせいだってことで責任をとれるんですけど、市政の場合は急ぎ過ぎて失敗してどうだったってなったときに、なかなか難しいというふうに思ってます。だから市政の部分で、例えば民間のノウハウって簡単に言いますが、なかなか難しいと思うんです。でも、そういう時代だということはずいぶん、頭に入れながら、各事業展開を進めていただきたいなというふうには個人的に思ってますね。

小渡さんいかがでしょうか。

【小渡委員】

戦略目標6のところ、空家の現状の促進事業の効果で転入者増に繋がっていますよって発表もあったんですけど、石狩市さんが今年度もやっています空家宝化プロジェクトというのを、弊行としても非常に注目しておりまして、空家の所有者向けに除却費用だとか補助してる地方公共団体は多いですけども、北海道も、他県もそうなんですけど。その中で不動産事業者に補助金を設定して民間の活力を活用して、空家の流通に繋げるといのは、石狩市独自の試みでございまして、金融機関としてもいろんな立場で参加できるということで、建築住宅課のほうとも連携して、不動産ネットワークとも連携して対応しているところでございます。弊行としても非常に注目していて、ほかの店にもこの情報を発信して、行政に働きかけてどうですかということも行っておりますので、これがうまく回転して、危険住宅を含めて空家の流通化に繋がっていけばなというふうに思っています。

【角川会長】

はい、ありがとうございます。私の知り合いでも取り組まれている会社さんがおります。ぜひこの流れを推進してほしいなと私も思っております。すみませんちょっと遅れてご参加されていますが、北海道信用金庫の支店長 佐藤 様お願いします。

【佐藤委員】

遅れまして申し訳ございません。各施策一つ一つが重要というふうに考えているんですが、石狩市におきましては、来年度はコストコであるとか、イオンの物流センターであるとか、労働力が増える。それに伴って、石狩市に居住する人がこれからまた増えてくるんだろうなと思います。そこで少子高齢化にある中で、いかに子育て世代を取り組んでいくかということに私は関心がございまして。(2)5ページの子育て力をさらに発揮するという中で、こういった集まりってどういう定義の集まりかというのは別として、こういった子育て世帯に情報発信しながら、若い世代がどんどん来やすいよう、石狩市の教育環境とか、

そういったものを整えていくというのも1つの差別化になるのかなというふうに考えております。例えば、石狩市におきましては、何かの統計で見ましたが、スポーツか何かの全国平均のアベレージが高いとありました。ですから、子どもたちの良い部分を延ばせられる環境、そしてそれに基づいて子どもたちが更に強い環境の中で集まってくれるような、そういった石狩独自の取り組みといいますか、強味というものを探しながら、子育て世代をたくさん取り込んでいくということは、大事なのかなと個人的には考えます。以上です。

【角川会長】

はい、ありがとうございます。今、子育て世代の話があったんですけど、本日は、一般公募ということで初めてご参加された秋田谷さん。今日初めて参加されたんですけど、今の話題に限らず、何かご意見ご感想等ありましたら。

【秋田谷委員】

私は生まれも育ちも石狩で、ずっと石狩に住んでいるんですけども、結婚して自分で自炊生活するまで、本当に石狩に興味がなかったんですよ。そういった働いている世代の方たちって、目線がどうしても札幌に行きがちなので、そういう方も多いのではないかなと思うんです。私が石狩を好きになったきっかけというのは、ミニトマトがおいしいっていう単純なきっかけだったんですけども、そういった些細なきっかけ1つで、市民の方々がもっと石狩を好きになることっていっぱいあると思うんですよ。だから、先程もおっしゃったとおり、コストコだったり、そういうものがあるんだっていうだけでも、ちょっとしたきっかけになると思います。例えば市内の園が全部認定こども園になったりとか、医療助成が小学校6年生まで延びたとか、そういったことが最近多々増えてきているので、石狩はとても住みよいまちだなっているのが、私の感想なんです。私、仕事でも厚田とか浜益とかに行ったりするんですけども、最近地域おこし協力隊の方たちがすごく活発に活動していて、厚田も浜益も魅力をSNSですごく発信してるんですよ。私たちの世代って情報収集しようと思ったら、すぐスマホなりパソコンなりで調べてしまうので、石狩市全般的にそういった情報発信に関してちょっとまだ弱いのかなっていうのが多々感じられるところがあるので、そういった面も踏まえて、情報発信を頻繁にしていけば、興味を持って、こういう数字がどんどん右肩上がりになっていくのではないかなと思っています。すみません、簡単なことしか言えませんが。

【角川会長】

ほんとおっしゃるとおりで、石狩市がってわけではないですけど、確かにちょっと弱い感じがするんですよ。せっかく良い素材が石狩にたくさんあるのに、PR それこそSNSとかフェイスブックだとかね、発信力が若干弱いかなって、私もそういう感想を持っています。私はガンガンする方なんですけど。世代的には珍しくかもしれませんが、ガンガン情報発信をフェイスブック等でされている酒井さん、いかがですか。

【酒井委員】

結構やっています、というか見えます。私、商売は花屋なんですけど、やっぱりPR。まして今年はコロナでとんでもないことになってて、そこで思うことは、やっぱりこれからはどんな会社もきっとテレビ、携帯、そういうもので商売もある程度ガラッと変わっていくのかなっていう中で、何年も前から、ホームページを作るだとか、そういうことにすごく興味があって。その中で仲間内にしてきているんじゃないかなと思うんですけど、お返ししたり絵が来たり。やっぱり若いからっていうんじゃないで、時代についていかなきゃいけないんだっていう感じは持っています。ただ歳には勝てないので、本当に石狩は若い方

がどんどん増えてきてますんで、その中でそういう商売も、子育てもすべてにおいてその辺に力を入れる、入れてくれる。自分もそうなんだけど、歳をとれば、誰かに助けを、誰かに一言ぽんと肩を押してもらえ、そういう協力者がいればいいなって、いつも思っています。ですから石狩も、今後どんどん変わるだろうし、東京だとかそちらの方に知り合いがいますけども、やはり石狩に、北海道に来たいという人もかなりいるみたいで、やはりまちづくりっていうのはすごく大切なんだなってつくづく思っています。

【角川会長】

ありがとうございます。全く我々世代、それ以下と遜色なくやりとりできていますから、すごいなと思います。まだご意見等あると思いますが、次第7番その他でもお時間とりますので、次の次第6番の方に進めさせていただきたいと思います。

次第6「第2期総合戦略について」を事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（橋本主査）】

それでは、第2期総合戦略についてご説明申し上げます。昨年度策定いたしました第2期総合戦略は、令和2年度から6年度までの5か年計画であり、第1期総合戦略の内容を継承しつつ、地方創生の、一層の充実・強化に取り組むため、具体的な施策・事業やKPIの改善や見直しを行い、新たな取組を盛り込んだものになっています。

資料6の「第2期総合戦略 令和2年度実施予定事業一覧」をご覧ください。こちらは、今年度予定している事業の一覧ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止が決まった事業も出てきておりますが、あくまで当初予定している事業内容を掲載しています。

全部で64項目ございますが、時間の関係もございますので、1から6までの戦略目標ごとに、特徴的な事業や第2期からの新規項目をピックアップしてご説明いたします。

戦略目標1 新現役世代が活躍するについて、2ページをご覧ください。右端に番号を振っております。10番は第2期総合戦略からの新規の項目になります。KPIは「ウォーキングイベント参加者数5年間で1,500人」と設定し、今年度の取組は、ウォークの日イベントを毎月1回と、石狩いきいきウォーキングを年3回予定しています。ウォークの日とは、生活の中にウォーキングを取り入れるため、毎月9の付く日を「ウォークの日」と設定し、市内近郊を歩くイベントです。また、石狩いきいきウォーキングは、本町地区、厚田区、浜益区の街並みや自然を眺めながら歩くほか、自由時間に温泉や買物、食事を楽しむことができるイベントで、これらを通じて健康寿命の延伸に向けたサポートを行います。

戦略目標2 子育て力をさらに発揮するについて、4ページをご覧ください。17番のKPIは「待機児童数通年0人」と設定していますが、こちらは第1期では「認定こども園数」としていたものから変更した項目です。取組としては、今年度から保育士の人材確保を目的として「石狩市保育士等就職奨励金」を新たに設けました。こちらは、市内認定子ども園などに、新たに保育士として勤務する方や、その後一定期間継続勤務した方を対象に奨励金を交付するもので、新卒保育士に、採用時に20万円、3年継続勤務で10万円、5年継続勤務で10万円を交付するという制度です。また、保育に係る周辺業務を行う者を配置するための費用を一部補助することで、保育士の業務負担を軽減し、増加する保育需要に対応します。

戦略目標3 地域資源からモノやしごとを創るについて、5ページをご覧ください。23番は新規の項目になりますが、KPIを「地場農産品販売額 5年間で15億円」と設定しています。今年度は「地物市場とれのさと」の、農産物の流通や販売促進、情報発信の強化への支援を行うものですが、この、石狩市農協の

直売所「JAいしかり地物市場とれのさと」は、昨年3月、石狩振興局から、「いしかり災害時対応ファーマーズ・マーケット」の第1号に認定されました。「いしかり災害時対応ファーマーズ・マーケット」とは、災害時に農産物直売所を、食料品の供給や情報発信の拠点に活用するため、災害時対応型直売所として認定する制度です。災害時に物流が麻痺しても、農家が直接農産物を届ける直売所は影響を受けにくいという強みを活かすことができます。

戦略目標4いろいろな顔をつくるについて、8ページをご覧ください。39番のKPIは「農泊施設を拠点とした新たな体験メニュー開発数5年間で10件」と設定しています。昨年10月、五の沢地区に古民家の宿「Solii ソリー」がオープンしました。明治43年に建築された旧山谷邸を改築したもので、1棟まるごと貸切にできる宿泊施設です。美しい田園風景を堪能できるほか、イモ掘りやミニトマトの収穫などの農村体験も可能で、今年度は更なるメニューの掘り起こしを行い、関係人口の創出・拡大につなげていきます。また、今年度から「アグリケーション体験事業」を実施します。アグリケーションとは、農業のアグリと休暇のバケーションとを組み合わせた造語です。週に4～5日間程度の農作業を行い、それ以外の時間を休暇としてローカルライフを体験することができるプログラムになっています。現在、数件のお問い合わせが寄せられている状況です。

戦略目標5誇りとなる人や文化を育てるについて、12ページをご覧ください。50番のKPIは「地域おこし協力隊定住5年間で6人」と設定しています。今年度は、5月・厚田区に新たに1名が着任し、現在、厚田区4名、浜益1名の計5名が活動中です。また、浜益区で1名の隊員を募集しているところです。

地域おこし協力隊の任期は最長3年で、卒業後の起業を支援する補助金制度を設けることで、卒業後も市内に定住できるよう支援しています。

戦略目標6時代にあった地域として持続するについて、14ページをご覧ください。56番のKPIは「空家活用促進事業制度利用件数 5年間で100件」と設定しています。これまでの空家活用促進事業は、市内の空家を購入した場合25万円を助成し、市内事業者を利用したリフォームや、18歳以下の子どもと同居、市外からの転入で石狩の事業所で勤務する場合には加算があり、最大100万円を助成する制度でした。

今年度はこれに加え、新たに「空家宝化プロジェクト事業」を開始します。こちらは、空家を購入し除去した後に再販する、または、空家を改修した後に再販する事業者に対して、費用の一部を補助する制度です。これまでの空家活用促進事業と連携することで、長期間空家となっている物件の流通促進を図るものです。

以上、第2期総合戦略に係る令和2年度実施予定事業についての説明を終わります。私からは以上です。

【角川会長】

先程は結果についての検証でしたが、ここからは第2期の総合戦略でこれからの話です。いろいろとご意見をいただければなというふうに思っております。それでは、ご意見をお持ちの方お願いいたします。先程はKPIや目標数値のほうに着目しがちだったんですけど、それ以外で内容についても、質問等も含めてこんなのがいいんじゃないかなとか、ぜひお聞かせいただきたいんですが、お願いします。

【林委員】

先程の説明でコロナの影響はいろいろあるけれども、今年度に関してはそのままにしてあるというお話だったんですが、イベント的なものもすごく書かれていて、私は今の段階で、この回数は無理とか、この人数は無理というものであれば、今年度に関してはコロナの特別な事情ではあるけれど、減らして書いて

おいたほうがいいんじゃないかなというふうに思っているんですが。やっぱりなかなか役所の場合、そういうわけにはいかない。例えば民間の場合はコロナで計画も立てられない大企業なども、報道されていますよね。ちょっといつもと違いすぎるのではないかなと思うんですが。どうでしょうか。

【事務局（中西次長）】

確かに、今言われたとおり、現時点でじゃあどうするのかということ、速やかに対策も含めて整えるべき、ということだとは思いますが、申し訳ないんですが、これまでの取りまとめと、今期予算組みを含めて、現状組み立てた内容をこの時点ではお示しするしかないという状況であったということ、まずご理解をいただきたい。とはいえ、このままできないという状況ですので、じゃあどうするのかというのは、内部でも速やかに検討を進めつつ、とはいえコロナももう終わるのか、いやまた次の波なのかと、やるべきことも昨日と今日ではまた違う考えが出てくるという中で、なかなかこういった会議で速やかにお示しできるタイミングが来ないという、もどかしさも我々のほうでは思いながら、今日お示ししてるところです。改めて、こういうことをやったらどうだという部分で、皆様からご意見をいただければ、そういった意見をいただいた中で改めて反映していくような流れで進めていければなというふうに考えております。

【角川会長】

よろしいですか。直接的に、例えばイベント、お祭りもそうですし、どこかに何百人も集まってっていうのも、少なくとも今年、来年頭ぐらいまでは現実的じゃないというふうに思ってます。その辺を今後、今年度1年2年分の、例えば人数の調整ができるのであれば、今後検討していただきたい。あるいは、今おっしゃったように、新しい方法、例えばリモートでやれるのかとか、オンラインでできるものはないのか、というのも考える余地があるんじゃないかなというふうに思っています。

【河野委員】

少なくとも7月の広報の発表で、三大秋祭りが中止になっているんですね。それがこちらの事業予定一覧にあるということは、5年のうちの1年は全くなくなるわけですね。来年もどうなるかわからない。来年のことまでは言えないとしても、今年5分の1がなくなったということだけは、数値に反映できたらいいのではないかなと思うんですよね。

【角川会長】

そんな感じですよ。少なくとも今年1年は、5分の1は削られる可能性があるというような感じなると思いますね。

【河野委員】

それは後からでもいいのかもしれないですけどね。それに代わる何かないでしょうかね。この期間中に。

【角川会長】

酒井さん、どうぞ。

【酒井委員】

知らなかったんですけど、保育士さんに20万円、さっき数字を言っていましたよね。知らなかったなっ

という部分と、やはり保育士さんを入れるっていう、ここまで手厚くするということは、結局若い人が子育てのために働かなきゃいけないというところで、子育て支援の一環としてやっているのかなってまず思ったのと、どこでしゃべったか聞いたかはわからないけど、石狩には小児科が一軒しかない。そういう所もあるので、やはりこの辺のバランスはちょっと考えてなきゃいけないのかな。札幌が近いから何でも札幌じゃなくて、石狩に若い世代を呼び込むためには小児科がないというのは…。そういうふうにごく考えたんだけど、リモートだとかオンラインだとか、病院もいろいろやっていますけども、小児科に関してはね。浜益からわざわざ来てるんだっていうお客さんもいるし、厚田から来てるんだっていう人もいる。だから、小児科のことに関しては、孫の孫世代になってくるんで、私もちょっと心配だなと思ってますけどね。石狩市では子育てにはかなり力を入れているのかなって。ただ病院のことに関しては、もうちょっと力入れてほしいなって思っています。

【角川会長】

私も子育て世代なんで大変なんですけど、小児科は本当に。民間相手なだけになかなか難しいんですが、前回は出てましたよねこの課題。子育て世代の小林さん、どうですか。

【小林委員】

私がした話ですね。難しいという話だったんですね。私も子どもがいるんですけど、先程スポーツが石狩で盛んだという話。B&G スポーツ広場の中で、サッカーをやっている子どもたちがすごく多いんですけど、あそこ夜9時までナイターで練習をやっていて頑張っていると思う反面、あの辺危ないんですよ。道路と歩道があまりきちんと整備がされてなくて、信号がないので。抜け道で使っている方もいて、うちもとれのさとに出荷する時は、あの道を通って消防のところまで行くんですけど。子育て世代を応援したい、スポーツを支援したいなら、あの辺の整備をもうちょっとやらないと。今のところ人身事故は起こってないんですけど、車対車の事故は毎年見るので。去年1つ見たのは、うちのほうに来ると排水路があるんですけど、朝そこに車がひっくり返って浸かって、ということがあって。中に人はいなかったんですけど。あの辺の整備をきちんとしたほうがいいんじゃないか。関係者に聞くと、石狩市にはそういう要望は出しているけども、なかなかその道路自体がそういう規格じゃないので、整備は進まないという話を、そう回答いただいたという話を聞いた。子育て世代としては、子どもが遊ぶ環境にも、もうちょっと力を入れてほしいなと。

【角川会長】

そうですね。インフラ整備に関してはここの懇話会の中ではなかなか出る話題ではないんですけども、確かに石狩市は、今、小林さんがおっしゃった例以外でも危ないところが結構ありますよね。あるいは正直子どもに優しくないところ。あるいは遊ぶところが少ない部分だとかいろいろある。そこは予算の関係もありますけども、こちらの部署ではないのかもしれませんが、声を出し続けていっていただきたいなと思っております。本日まで参加の中で、初めてのご参加で一番年齢が若いかもしれない品川さん、何かございましたら。

【品川委員】

私も一応子育て世代です。先程の第1期の報告の中で、社会動態でだいぶ人が入ってきていて、その後、人口の転入転出で、転入超過もかなり目標値を超えて入ってきているっていうのは、こういった部分での石狩市として、人を呼び込もうという活動の現れなのかなと思っていて、それが徐々に実ってきている結果なのかなっていうのは改めて数字として見て思いました。その中で、来たばかりの石狩市民の方たち

が、まだ気づいてないっていうところが、例えば、住宅地って言うと樽川とかあの辺りに人がぎゅっと入ってきてると思うので、そこら辺でよく聞いているのは、学校に行くための通学路が一応広い道路ではあるんですけど、いわゆる手稲街道のところちょっと危ないとかはよく聞く。樽川はだいたい人は入ってはきてますけども、ああいったところの環境整備になっちゃうんですけど、そういったところは改めて問題として声が上がってきている以上は、より耳を傾けて問題提起をしていってもいいのかなとは思いました。

【角川会長】

ありがとうございます。時間の関係でお三方にご意見を伺いたいなと思っています。すみません、指名をさせていただきたいんですが、今回も初めてご参加の厚田こだわり隊の小山さんお願いします。

【小山委員】

私は厚田に住んでおりまして、こだわり隊っていう、食べ物だったり厚田を PR するための有志の団体なんです。加工品がありまして、その加工品を学校給食の石狩ウィークの時に提供したり、ちょっとコンパクトにして提供したり。今年は浜益の浜益牛を利用して給食で子どもたちに食べてもらうっていう取組、すごく良いと思うんですね。やはり地元の食材を食べてもらって、育てていく。食育していく。そういう教育ってすごく良い取組だなと思います。それから個人的には建築業をやっております、空家のリフォームに補助を出すという。現に厚田でも漁師さんたちはやはり子どももいらっしゃって、公営住宅に入っていて、ちょっと狭くなったということで、もう2～3年前から利用して、新しいお家にリフォームしたり、そういう補助を受けている取組っていうのは、すごく利用されています。とても良い取組だなと思っております。あと先程秋田谷さんが言われたように、地域おこし協力隊の方がたくさんいらっしゃるけど、各部門で活躍していて、今一人若い方が SNS など発信をしている。そういう取組も、若い人たちが他から入ってきて、そのまちの人たちにを刺激して、交流しながら PR していくっていうことはすごく良いことだなと思っております。保育所の補助の話、初めて聞きました。とれのさとが災害時対応型の直売店になったってことは、やはりすごく頼もしいことだなと思っておりますね。以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。次に、徳光さんお願いします。

【徳光委員】

いろいろご意見出たんですけど、社会動態的な人口は増えている。やっぱり年少人口の減少は止められないという感じはすごくある。うちの店、花川の住宅街の中にあるんですけど、結構歩いて、お子さんを連れて買いに来る方が増えている感じはするんです。なので、花川の住宅エリアでは、札幌からいらっしゃってる方はまだ増えているのかなという印象はあるんです。そこを減らすのを、どこまで緩やかにするのかっていう、根本的な問題なんですけど。いろいろな項目がある中で、担当の課はいろいろありますよね。そこが縦割りじゃなくて、どういうふうに連携しているのかっていうのは、やっぱり風通し良くしていかなきゃならないのかなあと思います。そこが非常に気になるところです。

【角川会長】

ありがとうございます。白井さん、お願いできますか。

【白井委員】

連休前まで、また例年どおり果樹園の手伝いに行っていたんですけど、今年はイベントが中止になった

ということで、ezorock の子どもたちが日替わりで手伝いに来てくれていて、もう自分の子どもより若い世代と話をするのがほぼ無い日々だったので、とってもいろんな刺激を受けたんです。彼らもほぼ、札幌からなので「浜益って良いとこだね」とか、自然の、例えば鳥の声にしても、果樹のなり方、「こういうふうになってるんですね、こうやって取るといいんですね」とかって、すごく楽しんでくれて。こういうのは事業にならないのかなって。グリーンツーリズムみたいな形で、ちょっとの間、例えば1週間とかステイして手伝ってもらおうと私たちも助かるし、彼らも自然を満喫できるみたいな事業ができたらいいなあと思って仕事終わったんですよ。それとさっき SNS で情報発信ということだったんですけど、私ラジオを聞いて仕事をしているんで、岩見沢市は、火曜日の AIR-G だと思いますが、子育て世代に向けての発信をしているんです。岩見沢はこういうことをしていますよ、みたいな。そして、三笠市はテレビ媒体を利用しているんですよ。それを見るたびに、何で石狩やんないのかなって思っているんですよ。お金がかかることですからあれですけど、やっぱり今情報の時代ですから。石狩の良さを、石狩の住人としてはもっと発してほしいなっていう気持ちで、そういうニュースを聞いています。

【角川会長】

えりすテレビは昔からあるんですけど、皆様どれだけ見聞きしているかっていうと、ちょっとね。せっかくあるものをもっと活用してほしいなと私も思っています。すみませんお時間あつという間に、第1回のほうはなってしまったんで、引き続き7番その他なんですけども、お二方ほどその立場でお話いただきたいんですが、いつもたくさんお話いただくのに、今日あんまり出番がなくて申し訳ない。河野さん。

【河野委員】

気になったのは、とにかく若い人からボランティアを作ろうということがほとんど参加者ゼロで、全然上手くいってない。1つ思うんですけど、石狩は藤女子大学があるということで、結構、食についても、子育て、子どものことについても、何か学生を巻き込んでやろうとされることが、いろんなところで感じるんですけど、そのときにこれだけ結果が出ないというのは、やっぱりこちら側に利用してやりたいっていう気持ちがあるからなんだろうと思います。つまり学生の力を利用したいと。利用してやりたいとか悪意じゃなくてですね、学生にこちらが一方的に甘えてるっていう感じ。学生側にとってメリットが、双方にメリットがないと物事は動かないというのは、どなたもご承知なんですけども、多分そういう形になってないから、ボランティア活動がうまくいってないのかなって。これは藤女子大学だけじゃなくて、学生全般、若い人全般に言えることのような気がします。そこら辺の知恵がほしいと思いました。

【角川会長】

これは私も同感なんですよね。いろいろ場面とか活躍の場面を用意しましたよと。ところが、向こうから来るのを待っていてもだめなんですよね。行政の方からこういうのがありますからぜひ参加してくださいって。ボランティア団体のほかにも青年団体とかありますよね、青年会議所とか。そういう所にどんどん行政のほうから働きかけをしてほしいなっていうふうに常々私は思っていて。せっかくこういう枠があっても活用されない、ゼロですよ、評価 B ですよ、だと非常にもったいないですよ。すみません最後、竹口副会長。

【竹口副会長】

いろいろとご意見出たと思うんですけど、ちょっと行政のほうにお願いなんですけど、いろんな B の見立てのところですね。1つの例として私が関係しています、地域自治システムの問題ですね。一応窓口は企画課なんです。ところが事業主体とか実施する方々は町内会なんです。町内会の窓口はですね、

広聴・市民生活課のほうなんです。広聴・市民生活課のほうは、町内会のいろんな団体の役職だとか、そういう組織とかを吸い上げるだけであって、こういうことを発信してないんですね。ですから自治システムを最初に立ち上げた時は、将来的には広聴・市民生活課のほうに窓口になって、いろんなことを町内会で、例えば会館の運営だとか、あるいは環境整備、防犯、交通などいろんなことやってるんですね。広聴・市民生活課は、交通の事務局をやってますし、防犯のほう協会の事務局もやっています。ところが企画課のほうは、全体の仕組みでやっていますんで、ちょっと組織としてはですね。例えば組織がうまくいくってというのは、双方向の情報の伝達がないとうまくいかないんですね。私も組織で育った人間ですけど、上意下達はいいんですけど、下意上達というか、地域住民の声を吸い上げて、それを事業化して推進するという項目ですから、それをどのようにするか。ですから、例えば我々がやっているんですけど、環境整備で、公園の草刈りだとか、歩道の除雪だとか、草刈りもやっています。ところが予算の窓口は都市整備課なんですね。自治システムがやる時は、例えば300万を地域にやって、いろんな課題をやってくださいということですけど、行政の仕組みは、各部門、部課で予算を計上しているんです。ですから、予算を持っているところは、ただ事業を実施したかしないかのチェックだけであって、それを水平展開するとか啓蒙するとかという機能はあまりないと。ですから、もしやるのであれば、関係する部門での連絡協議会みたいな会議をした中で実態はどうなってるか。ですから企画する部分は企画課でいいんですけども、実施段階では、その事業ごとに各セクションの人は、担当してやるとスムーズに行くのではないかなと思うんです。自分はいつもやっててジレンマを感じているんですけどね。この辺がちょっと民間組織と行政の組織では。行政の組織は本省から来て道から来て、その組織にだいたい市町村が対応するような組織になってますんでね。ですから地域住民のニーズといいますか吸い上げる形をどうしたらいいかということ、庁内でいろいろ検討することによって、こういういろんな問題も中にはAランクに格上げできるような仕組みになってくるのではないかなというふうに思います。企画課では町内会の窓口ではないんですね。我々を担当してるんですけど。広聴・市民生活課だとか、都市整備課がそういう環境だとかをやってるもんですから。最初の頃はそういう人たちもメンバーに入っていたんですが、今は企画課だけが窓口になって。他の担当は自治システムとか地域社会のことは関係ないということになってるんで。その辺をちょっと、風通し良くというか、横の連絡会議とか、この組織も一応部長さんですけど、企業の場合は課長連絡協議ぐらいいやったりとか。セクションごとに横の連絡を、組織をうまく風通しよく、先程徳光さんから出ましたけど、縦割りですからそれは仕方ないと思うんですけど、情報の伝達だとかこの問題解決をどうしたらいいかというような、庁内の連絡会というようなことやることによって、このいくらかできる方法、事業の目標が達成できることがたくさんあるような気がいたしますので、その辺ちょっと課題としてやっていただきたいと思う。以上。

【角川会長】

おっしゃる通りですね。どうしても縦串で、課、部、部、課、と縦串でこうなんですけど。例えば委員会とかね、横串のものがあればいいなと常に思っています。縦と横でそれが、がっちり組み合わさって良い事業ができるんじゃないかなと思っています。大きな課題ですけどもそういうご意見があったということで、ぜひよろしくをお願いします

【竹口副会長】

一応、提言でございまして、なかなか実現的には難しいと思いますけど。

【角川会長】

ありがとうございます。お時間のほうになってまいりましたので、この続きはまた次回ありますので、

次回お願いいたします。それでは事務局より皆様方にご連絡がございます。

【事務局（橋本主査）】

3点、ご連絡します。

1点目は、情報提供です。現在、市では「(仮称)石狩市国土強靱化地域計画」を策定しています。国土強靱化計画とは、いかなる災害が発生しようとも、人命を守り、また経済社会への被害が致命的なものにならず、迅速に回復する「強さとしなやかさ」を備えた国土、経済社会システムを平時から構築するという発想に基づき、事前防災・減災等の対策を総合的かつ計画的に実施するために策定するものです。

国においては平成26年に、北海道においては平成27年に策定され、本市におきましても、自然災害に対する脆弱性を踏まえた施策を、総合的かつ計画的に推進し、市民の生命や安全を守り、災害に強いまちづくりの実現するため、今年度中に「(仮称)石狩市国土強靱化地域計画」を策定する予定です。まちづくりに関して、総合戦略と連携する計画になりますので、情報提供させていただきました。

次に2点目、本日の会議録についてですが、事務局で作成し、会長にご確認いただいた後、皆様に配布いたします。

最後に3点目ですが、2回目の総合戦略懇話会は、市内を視察するフィールドワークを予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、開催しない場合もございますことをご了承願います。私からは以上です。

【角川会長】

第2回は10月か11月という予定ですけれども、その頃には収束してもらいたいなと心から思うところがございます。次回開催されることを祈念いたしまして、それでは以上をもちまして、第1回石狩市総合戦略推進懇話会を終了いたします。本日は大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。

令和2年8月15日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長 角川 幸治